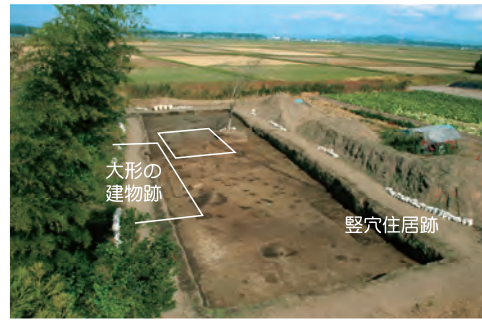
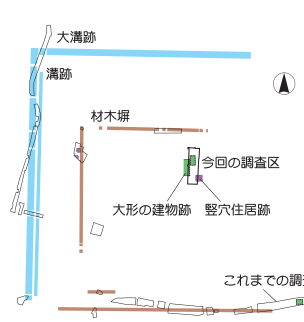


奈良～平安時代 赤井遺跡最大級の建物跡



南北に長い大形の建物跡(南から)



西部地区で発見されている8世紀代の建物跡や溝跡など

⑬赤井遺跡 (東松島市)

赤井遺跡は古代社鹿郡の役所跡と考えられる遺跡です。大溝や材木堀で囲まれた区画内部から、これまで発見されたものの中でも最大規模となる南北17.7mの建物跡が発見されました。区画内部で大形建物が見つかったことから、この周辺が遺跡の中でも重要な地区であったと考えられます。

丘陵斜面に並ぶ瓦窯群



遺跡全景。丘陵南斜面に窯跡が並んでいます(西から)。

⑭与兵衛沼窯跡蟹沢地区 (仙台市)

奈良時代後半と平安時代初めの窯跡を18基発見しました。窯跡の中には、破損品などの瓦を床に並べて、瓦を焼くための台としたものもあります。焼かれた瓦は多賀城や陸奥国分寺・国分尼寺へ供給されたと考えられます。なお、昨年度調査した窯跡の一部が保存されることになりました。



床に瓦を並べている窯跡

鎌倉～室町時代 東北初の発見！鎌倉時代の瓦窯跡



窯跡の全体の様子 (奥がロストルのある焼成室)

⑮仰ヶ返り地蔵前遺跡 (栗原市)

鎌倉時代後半の瓦を焼いた窯跡3基を発見しました。瓦を焼く部屋には、燃焼効率を上げるための炎の通り道(ロストル)が造られています。焼かれた瓦は付近の寺院に供給されたと考えられます。鎌倉時代の瓦窯跡としては東北初の発見となりました。



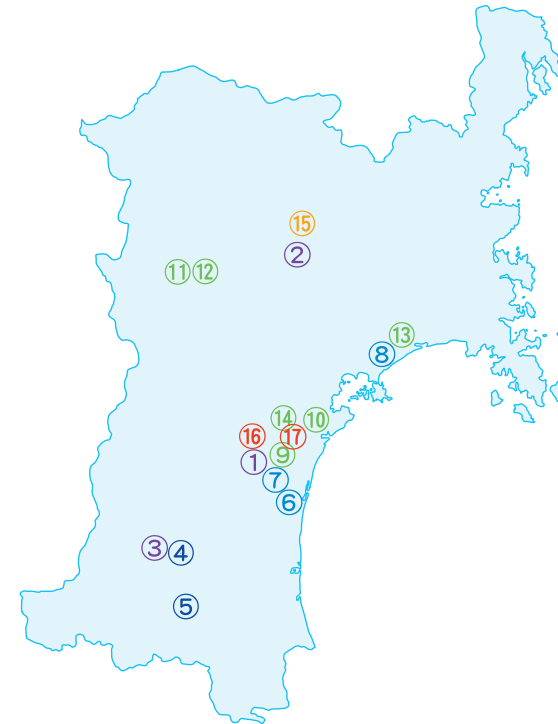
焼成室(瓦を焼いた部分)のロストル

平成19年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財保護課

2008年3月31日(月)～4月11日(金) 県庁1階ロビーにて開催

宮城県には、後期旧石器時代から江戸時代まで6,000ヶ所余りの遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対してはやむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。このたび、本年度に行った発掘調査の中で特に話題になった遺跡をパネルで紹介することにいたしました。この機会に文化財に親しみ、文化財の保護に対してご理解を深めていただければ幸いです。今回の展示にあたって快くご協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



時代	年代	主な出来事	パネルの遺跡
旧石器時代	約500万年前	アフリカで人類が誕生する	
	約50万年前	北京原人が洞窟で生活する	
	約3万年前	後期旧石器時代が始まる	
縄文時代	約1万2千年前	土器・弓矢が出現する	①山田上ノ台遺跡(仙台市) ②北小松遺跡(大崎市) ③鍛冶沢遺跡(蔵王町)
	約5000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	
弥生時代	紀元前400頃	東北地方で米作りが始まる	④鍛冶沢遺跡(蔵王町) ⑤和尙堂遺跡(白石市)
	紀元前300頃	豪族が盛んに古墳を造る	⑥塚根の塚古墳(名取市) ⑦春日社古墳(仙台市)
奈良時代	645	大化の改新	⑧矢本横穴墓群(東松島市)
	710	平城京(奈良市)に都を移す	⑨国史跡郡山遺跡(仙台市)
	724	多賀城が築かれる	⑩特別史跡多賀城跡(多賀城市)
	752	東大寺の大仏が完成する	⑪⑫壇の越遺跡(加美町)
平安時代	780	伊治公麻呂の乱が起こる	⑬赤井遺跡(東松島市) ⑭与兵衛沼窯跡(仙台市)
	794	平安京(京都市)に都を移す	
鎌倉時代	1167	平清盛が太政大臣となる	
	1192	源頼朝が鎌倉幕府を開く	
室町時代	1274・1281	文永・弘安の役(元寇)	
	1338	足利尊氏が室町幕府を開く	⑮仰ヶ返り地蔵前遺跡(栗原市)
徳川時代	1467	応仁の乱がおこる	
	1590	豊臣秀吉が全国を統一する	
江戸時代	1600	仙台城の築城が始まる	⑯国史跡仙台城跡(仙台市) ⑰若林城跡(仙台市)
	1603	徳川家康が江戸幕府を開く	
明治時代	1868	明治維新	

江戸時代 本丸大広間の構造が明らかに



仙台城本丸大広間跡 (人が立っているところが柱の位置)

⑯国史跡仙台城跡 (仙台市)

仙台城本丸の大広間は、慶長15年(1610)に完成したとされています。建物の周囲を巡る雨落ち溝と礎石のあった痕跡を新たに16箇所確認しました。それらが絵図に描かれた大広間北側の柱の位置とほぼ一致したことから、北半部の間取りが明らかになりました。



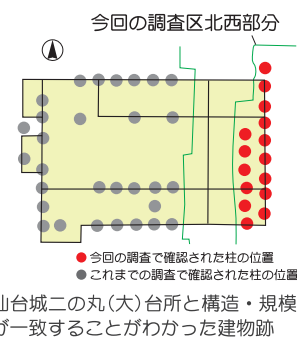
仙台城二の丸への移築を実証



今回の調査で発見された建物跡など(南から)

⑰若林城跡 (仙台市)

伊達政宗が寛永5年(1628)に造営し、晩年の約8年間を過ごした城です。没後は廃城となり、城内の建物は仙台城二の丸に移築されたと伝えられています。見つかった建物跡の1つが、二の丸を描いた絵図の“台所”と構造や規模が一致することから移築された事実が証明されました。



縄文時代 大形炉をもつ縄文住居



複式炉をもつ竪穴住居跡(直径約5.7m)

①山田上ノ台遺跡 (仙台市)

縄文時代中期末(約4000年前)の住居跡で、「複式炉」と呼ばれる石組みのみごとな炉が作られています。炉の全長は2.7mにも達し、住居の直径と比べて非常に大形であることが分かります。こうした大形の炉は、この時期の東北地方南部の炉の特徴を良く表しています。



土器を埋め、大小の石を組んで炉を構築しています。

縄文人の生活道具



出土した土器や石器などの生活の道具

②北小松遺跡ほか (大崎市)

縄文時代晩期後半(約2500年前)の遺跡で、旧田尻町に広がっていた当時の沼の岸辺近くから、周辺の集落で使われていた深鉢や四脚付鉢、磨石や石皿など生活道具が多数出土しました。また、祭祀に用いられた土偶なども出土しており、当時の生活を知る貴重な資料となりました。



出土した土偶の頭部

協力 (五十音順) 加美町教育委員会(壇の越遺跡) / 白石市教育委員会(和尙堂遺跡) / 仙台市教育委員会(山田上ノ台遺跡・春日社古墳・郡山遺跡・与兵衛沼窯跡・仙台城跡・若林城跡) / 東北学院大学(仰ヶ返り地蔵前遺跡) / 名取市教育委員会(塚根の塚古墳) / 東松島市教育委員会(矢本横穴墓群・赤井遺跡) / 宮城県多賀城跡調査研究所(多賀城跡)

文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>

縄文時代 巨大な柱の建物群



柱穴を観察すると、掘り直して何度も建て替えられたことがわかります。柱は最大で直径約50cmのものもありました。

建物の柱の位置に人が立っています。

③鍛冶沢遺跡 (蔵王町)

縄文時代晩期中頃(2700~2800年前)の建物群を発見しました。巨大な4本の柱で建てられており、同じ場所で何度も建て替えが行われたことがわかりました。また、建物群は弧状に並び「きまりごと」のもとに建てられたと考えられ、当時の集落の様子を知る上で貴重な発見です。

弥生時代 壺を使った弥生時代の墓



石を避けるように3個の壺がまとめて埋められていました。

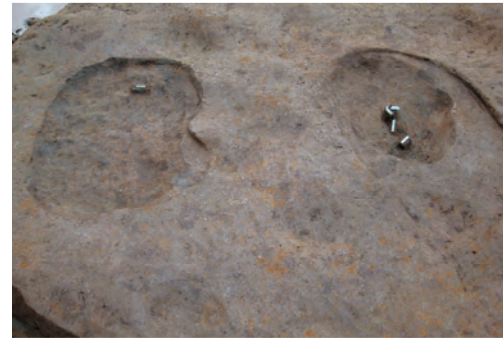
④鍛冶沢遺跡 (蔵王町)

遺体をいったん埋め、後に骨を集めて壺に納めて埋葬した墓で、再葬墓と呼ばれています。弥生時代前期(2200~2300年前)のもので、このような墓は北関東から福島県にかけて多く見つかっていますが、県内の発掘調査で発見されたのは初めてです。



遺骨を納めた土器。手前の土器は、蓋として壺に被せられていました。

首飾りが出土した墓



並んで検出された土壙墓

⑤和尚堂遺跡 (白石市)

弥生時代中期頃(約2000年前)の土壙墓が、2つ並んで見つかりました。土を掘り窪めた穴(土壙)に遺体を直接埋葬しています。大きさは長軸60~80cm、短軸40~60cmです。底面から管玉が折り重なるような状態で見つかり、葬られた人が身につけていた首飾りと考えられます。



首飾りの出土状況

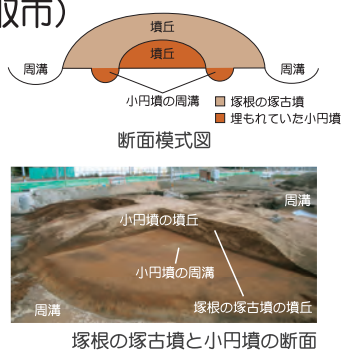
古墳時代 円墳の下に埋もれた小円墳を発見



塚根の塚古墳とその下に埋もれていた小円墳の全景

⑥塚根の塚古墳 (名取市)

塚根の塚古墳は5世紀に造られた円墳で、直径が約28mあります。調査したところ、この古墳の下に埋もれていた直径約7.5mの小円墳が見つかりました。このように同じ場所に古墳が重ねて築かれる例は全国的に見ても珍しいものです。



「矛・盾」を出土した武人の墓



革盾復元模式図
*写真に合わせて上下を逆にしています。

矛、革盾、矢の出土状態

⑦春日社古墳 (仙台市)

仙台市内最大級の円墳で5世紀後半のもので、墳丘中央にある埋葬施設から、矛や革盾・矢(鉄鏃)が見つかりました。革盾は東北地方初の発見で、赤や黒の漆で繊細な装飾が施された優品です。ヤマト政権からもたらされたと考えられ、葬られた人物の地位や性格を知る上でも貴重です。



春日社古墳の全景(直径約35m)

飛鳥時代 何世代にもわたって使われた墓



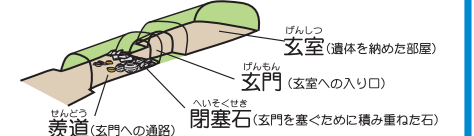
横穴墓の入口付近からまとまって出土した土器



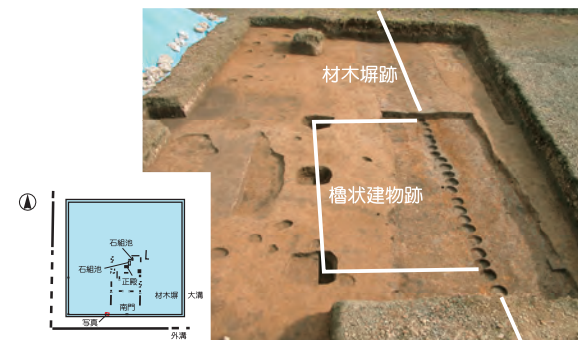
⑧矢本横穴墓群 (東松島市)

崖に横穴を掘って遺体を納めたお墓で、矢本横穴墓群では200基ほどあるといわれています。このうち88号墓からは何体分もの遺骨と土器がまとまって出土しました。これらには7世紀から9世紀初めのものが混在しており、一つのお墓を何世代にもわたり使い続けたことがわかります。

玄室(遺体を納めた部屋)の中の様子。追葬によって遺骨が累積しています。



奈良~平安時代 役所を囲む材木堀



材木堀とそれに付属する櫓状建物跡(西から)

⑨国史跡郡山遺跡 (仙台市)

多賀城以前の陸奥国府と考えられる役所跡を調査し、役所を囲む材木堀とそれに付属する櫓状の建物跡を発見しました。材木堀は保存状態が良く、根元から110cmほどが腐らずに残っていました。樹種はクリで、直径20~30cmの太さに加工して並べています。



腐らずに残っていた材木堀

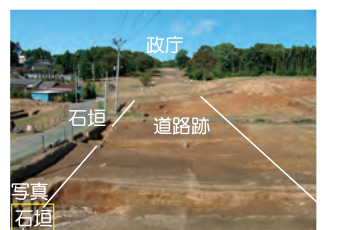
政庁への道に土留めの石垣



西側路肩の石垣(20m以上続いています)

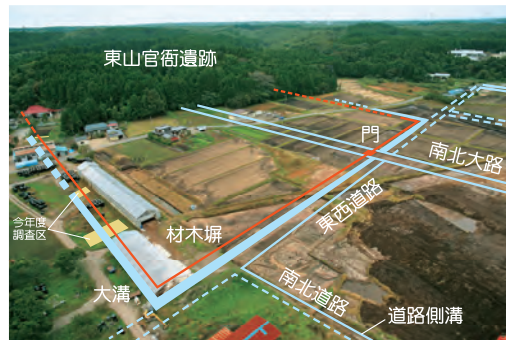
⑩特別史跡多賀城跡 (多賀城市)

外郭南門から政庁へ続く道路跡を調査し、道路が創建当時(724年)から政庁の中心線を基準として直線的に建設されていたことがわかりました。政庁南門から約300m南側の湿地部分は大規模に盛土され、西側の路肩には盛土を押さえるための石垣が積み重ねられていました。



外郭南門から政庁へ続く道路跡

古代賀美郡役所の構造解明へ



東山官衙遺跡南側の様子(南西から)

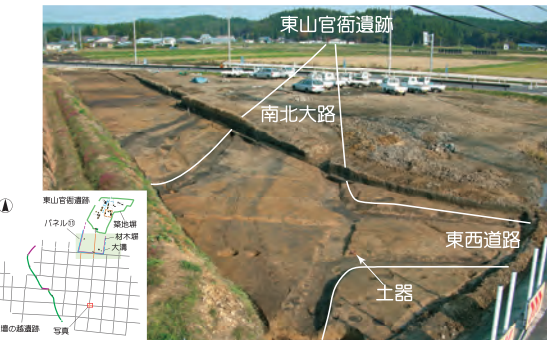
⑪壇の越遺跡 (加美町)

東山官衙遺跡(古代賀美郡の役所跡)の南側に材木堀と大溝で囲まれた区画を発見しました。南辺約201m、東辺約145m、西辺約228m、面積は約37,000㎡あり、内部には建物が少ないこともわかりました。東山官衙遺跡と関連する区画の可能性が高く、役所の構造を考える上で貴重な発見です。



発見した区画西辺の材木堀跡

交差点で行なわれた祭祀



土器が埋められていた交差点(南から)

⑫壇の越遺跡 (加美町)

壇の越遺跡は東山官衙遺跡の南に形成された古代都市で、道路によって土地が畷盤目状に区画されていました。メインストリートである南北大路と東西道路との交差点に、祭祀に用いられた7枚の土器が重ねて埋められていました。



交差点に埋められていた土器。皿が7枚重ねて埋められていました。